

マダラカサハラハムシに対する各種薬剤の防除効果

[研究のねらいと取り組み]

・チャの新葉を食害し穿孔するマダラカサハラハムシ（図1）は、8月頃に新成虫が発生して被害を及ぼし、近年では本県のみならず全国的に問題となっている。本種による被害の拡大を受けて、ここ数年で各種薬剤の登録が急速に進んでいるが、これらの防除効果の違いは明らかになっていない。このため、本県においてマダラカサハラハムシの基幹防除薬剤となっているコテツフロアブルを対照として、各種薬剤の防除効果試験を実施した。



図1 マダラカサハラハムシ成虫と秋芽における食害

[研究の成果]

- ・2019年の秋芽萌芽期に、コテツフロアブルを含む6薬剤を動力噴霧器により200L/10a相当量で散布し、散布14日後に虫数（叩き落とし調査）及び被害芽率（25×50cm枠内の被害調査）を調査した。試験は3反復で実施した。
- ・叩き落とし調査による虫数は極めて少なかった（データ略）ため、各薬剤の効果の判定は被害防止率（表1）で行った。
- ・無処理区の被害芽率は35.6%を示し、マダラカサハラハムシが中発生条件における試験となった（表1）。
- ・対照のコテツフロアブルの被害防止率は87.4%であり、高い被害防止効果が認められた（表1）。
- ・エクシレルSE、A剤、グレーシア乳剤、モスピランSL液剤の4剤は、対照剤と同様に高い被害防止率（85.9～95.3%）を示した（表1）ことから、本種の防除に効果的と考えられた。

表1 マダラカサハラハムシ成虫に対する各種薬剤の被害防止効果

供試薬剤<RACコード ^a > (成分%)	希釈 倍数	被害芽率%				被害 防止率%
		I	II	III	平均	
エクシレルSE<28> (シアントラニプロール10.2%)	2000	2.6	9.9	2.6	5.0	85.9
テッパン液剤<28> (シクラニプロール4.5%)	1000	7.1	11.6	7.4	8.7	75.7
A剤 ^b <28> (-)	2500	1.7	2.6	4.2	2.8	91.2
グレーシア乳剤<30> (フルキサメタミド ^{10.0%})	2000	2.1	0.7	2.2	1.7	95.3
モスピランSL液剤<4A> (アセタミプリト ^{18.0%})	4000	1.9	1.4	2.9	2.1	94.2
対照)コテツフロアブル<13> (クロルフェナピル10%)	2000	7.9	3.0	2.5	4.5	87.4
無処理	4000	40.9	39.1	26.8	35.6	-

a)28:ジアミド系、30:イソキサゾリン系、4A:ネオニコチノイド系、13:ピロール系 b)2020年登録予定の新剤